

昨年より21日も遅い梅雨入りとなった西日本。梅雨らしくじめじめはしますが、雨の降る日が例年より少ないような気がします。去年は西日本豪雨で大きな被害が出ました。出水期に入り、九州を中心に大雨の被害も出ています。大きな雨が降らなければいいなと曇り空を眺めています。

ネット社会で生きる子どもたち

6月30日(日)に湯梨浜町町民のつどいがあり、タレントのスマイリーキクチさんの講演会に参加してきました。演題は「インターネットに潜む危険なワナ～加害者にも被害者にもならないために～」でした。

日本を震撼させた凶悪事件の実行犯であるとネットに書き込まれ、誹謗・中傷被害を長期間に渡って受けていた体験談を話されました。いわれのないことで、心ない誹謗中傷がネット上に次々と書き込まれる。タレント活動にも影響し、自分や家族の身の危険を感じるほど脅迫めいたものもあったそうです。加害者が特定され一斉摘発されると、加害者の中には、主婦であったり大学の職員だったり、大手企業のサラリーマンであったりと、どこにでもいそうな人たちだったそうです。しかしネットに向かえば、心ない人を傷つける文章を平気であげる人になってしまう。

匿名性を利用した無責任な書き込みをする人の、人としての品格の無さや、いつ被害者になるかわからないインターネットに潜む危険を強く感じた講演会でした。

インターネット環境の急速な発達により、携帯電話・スマートフォン・ゲーム機等の電子メディア機器はますます子どもたちの生活の中に浸透し、利用の低年齢化も進んでいます。

ネット社会は、便利さと同時に危険も併せ持っているということを、子どもも保護者も教職員も理解していなければなりません。メディアとのかかわり方についての講演会等が実施されています。課題としてあげられている点をいくつかあげると、

- ① 話のようにやりとりできるが、会話のように本当の意味が伝わらないこともある。
- ② ネット発信した言葉や写真は拡散しやすい。
- ③ 相手の気持ちや真偽を確かめることが難しい。
- ④ 発信した内容は回収、削除が難しい。
- ⑤ 写真には位置情報が残り、場所が特定され犯罪に巻き込まれることも。

などがあります。

ネット社会で生きる子どもたちに、いろいろ危険なことがありますうだから使うなというわけにはいきそうにありません。ネット社会で生きる上で必要なマナー、ルールやモラルをしっかりと教えていく、子ども自身が学んでいくことが重要だと考えています。

お子さんのネット社会との関わり方を、家族で一緒に考え話し合うことがとても大切な時代がもうすでにやってきています。

